

国際法

<出題意図>

修士論文作成に必要な国際法についての基礎知識を問うものである。

【租税法】【出題の意図】

[第1問] 租税裁定取引(tax arbitrage)について説明しなさい。

租税裁定取引は、租税負担の軽減回避の一手段であるが、租税回避行為とどのような点が異なるのか、を問う。租税裁定取引の否認のための法的根拠（たとえば、事業目的の理論）には言及しなくてよい。

[第2問] 租税条約上のセービングの原則(saving rule)について説明しなさい。

租税条約が、課税のルールを定めるものではなく課税権配分のルールを定める国際法規範であることを前提に、居住地国が自国居住者にかかる租税条約の下でどのように法的に扱えばよいかを問う。

- ・租税条約の性質
- ・二重課税排除の方法
- ・先進国で考えられている、居住地国の最終的責任
- ・途上国における源泉地国の排他的課税権

などに言及していればよい。

〔労働法〕

出題の意図

いずれも労働法の基本的理解を問う問題である。〔第1問〕は副業・兼業に対する契約上の制限や労働時間管理・健康管理等について、〔第2問〕は労働契約法20条や短時間有期雇用労働者法8条に代表される均衡待遇規制の内容と判例が示している判断傾向について問うものである。〔第3問〕は、労働者性（労基法9条）に係る基本的な事例問題である。

出題の意図

- (1) いわゆるリベラリズムと区別するために使われるようになったリバタリアニズムについて、どの程度理解しているのか、また 1980 年代以降の小さな政府の立場からの福祉国家批判について、その理解度を見るものである。
- (2) We judged on how much the applicants realized neoliberalism through the way to explain its academic meaning and specific examples in practice.
- (3) 今日、主権国家体制の危機と言われる一方で、主権国家として十分機能しているという主張も見られることについて理解しているかを問う。
- (4) We judged on how much the applicants understood the history and significance of the sovereign state system in the globalization.

出題の意図

開発プロセスおよび開発協力のプロセスにまつわる困難さの原因構造を問う出題である。開発事業やそれを支える開発協力事業は、必ずしも成功という帰結に至るとは限らず、事後的な評価においても、数々の問題点が確認される場合もある。当事者全員が「善意」でありかつ「最善」をつくしたとしてもこうした事態は構造的に発生しうることを説明できるかどうかのポイントである。

【出題の意図】

本設問の意図は、運の平等主義と関係的平等主義という2つの理論的立場と、その間の係争点について記述してもらい、現代法哲学における基本的知識の正確性と、ある思想的立場を要約するという、思想研究に必須の能力の有無を測ることにある。運の平等主義と関係的平等主義（ないし民主的平等論）の間の対立は、分配的正義における近年のホット・トピックであり、日本語の教科書においても一定の紙幅が割かれているので、すでに法哲学における標準化された知識であると言える。したがって大学院前期課程を志望する学生に要求しても全く不当ではないであろう。